

潤いのある空間を創造

四方を山に囲まれた私たちの住む山形市。四季折々の木々が美しい。その潤いのある環境を創造し守るのが造園に携わる人々。創業大正3年(1914)。山形市役所の庭園に代表される多くの公共施設をはじめ、一般住宅の庭づくり、メンテナンスに取り組んでいる(株)今野庭園の今野久仁正代表取締役(日本造園建設業協会山形県支部長)を訪ねた。

「この地で創業して百年を超えたということですが。」

今野代表取締役 現在は東原町ですが、江戸初期から明治22年までは小白川村で、昭和6年に山形市に合併されました。小白川の地名は、清く澄んでいる水が流れる川のこと、蔵王から流れる滑川と、宝沢から流れてくる馬見ヶ崎川を表しています。最上義光公時代に城造りの



今野庭園が手掛けた山形市役所庭園

大石を宝沢から運ぶため街道が造られ、街道沿いに綿屋、麴屋、水車のある粉屋があり、大いに賑わっていたようです。

創業者である祖父久次郎は、造園業を生業とする以前、土木業を営んでいました。当時、馬見ヶ崎川は暴れ川と呼ばれ氾濫し、そのつど橋が流され、祖父は新たな橋を掛けていました。儲けなどは度外視のいわば社会奉仕で、「そのたびごとに家が苦しくなっていた」と祖母から聞かされています。

祖父は蔵王のごつごつした石が流され、転がされて丸くなったものを使い、風情ある穏やかな庭を好んで造っていました。父の仁一は昔気質の職人で、兄の道正が建設省に入省したことで、私が家業を継ぐことになったのですが、息子としてはなく、一人の弟子として厳しく接しました。ちなみに私の名前は上から三人の名



「1本でも良いから家庭に庭木を」と語る今野代表



庭木の手入れ作業。若手職人を実践指導



剪定(せんてい)、根回し、害虫駆除等々、造園の仕事は多岐にわたる

前の一文字をとっています。すなわち「久仁正(くにまさ)」です。

「個人住宅から公共施設まで業務は多岐多様にわたっています。」

今野代表取締役 造園業は、文字どおり住宅の庭園造りや公共施設である公園の緑化整備などを一手に請け負う仕事を指します。その業務内容は幅広く、植木の販売・剪定などの手入れ、害虫駆除、雑草対策、芝刈りといった個別の仕事から、生垣を含めた空間を設計・施工します。「造園技能士」や「造園施行管理技士」といった国家資格を取得することで、仕事の幅が大きく広がります。

木の性質は種類によって千差万別です。同じ種類でも、植えられている環境も違えば、若いか年老いているか、元気が弱っているか等木の状態も違います。実際の剪定作業は、その木を見て、枝を見てハサミの入れ加減を調節しているわけです。「一服」という言葉がありますが、木の状態を見定めて、どうしたら古い枝を飛ばし、透かし、挟んで、若返らせることができるか、木を生かすことができるかを考える時間なのです。

「長い歴史を誇る山形市の植木市への出店が目に見えて少なくなっています。」

今野代表取締役 寂しくなりました。かつては新築西通りから山形市立五中の先まで、通りの両側に植木屋さんがびっしりと並び、大勢の人が大小様々の植木を買い求めていました。私もお客様と一緒に品定めしたものです。「庭から聞こえる鉄の音を聞いているだけで楽しい」という方がいなくなったこともあるのです。園芸店などいつでも買求めることができる、或いは家は建てても庭までは手が回らないという住宅事情もあります。それでも、私がお長を務めている山形県造園業組合連合会では、義光公時代から400年余、先人が営々と築きあげてきた伝統を絶やさず、後世につなげたいとの思いで出品し、無料相談所を開設しています。

また、「まちなかに緑が少ない」という声も耳にします。せっかく植えた街路樹なのに、「落ち葉の処理に困る」、「手入れに経費が掛かり過ぎる」などの理由で、葉っぱがまだついていない段階で、枝がぱっさり切り落とされてしまっている。県道や国道の街路樹の中には、何とも見るにしのびない姿となっている箇所を目にします。仙台市の定禅寺通りの櫻並木、東京・銀座の柳の並木とまでは言いませんが、もう少し街路樹への配慮があつてしかるべきではと思えます。

「緑」は私たちの生活にゆとりと潤いを与えてくれます。別に大きな木でなくても良いのです。家に1本でも良いから木を植えて見ませんか。そんなことを思う次第です。

(株)今野庭園

創業 1914(大正3)年
 事業内容 造園設計・施工・管理
 庭園・緑地帯の維持管理
 庭木の相談・樹勢回復工事
 代表取締役 今野久仁正
 住所 山形市東原町1-12-16
 ☎023(622)5688